

月次報告書

検印 3	検印 2	検印 1	期間/報告日	2014/6/26 ～ 2014/6/26	2013/7/02
			実 施 場 所	東京国際フォーラム ホール A	
			所 属 / 氏 名	技術翻訳グループ	待木 健吾

業務実施内容について、以下のとおり報告いたします。

I：実施内容

1. 第 90 回 東京電力株式会社（以下、東京電力）定時株主総会 東京電力が主催する株主総会に出席し、以下を傾聴する。

- (1) 事業報告（平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日）
 - ① 株主総会議長・数土文夫 氏の紹介および同氏による開会宣言
 - ② 代表執行役社長・廣瀬直己 氏による事業報告
- (2) 議案の紹介および補足
 - ① 東京電力による議案の紹介
 - ② 株主側による議案の紹介および提案者の補足説明
- (3) 東電役員による事前質問の回答
事前に提出された質問に対する役員からの回答
- (4) 株主による直接質疑
出席した株主による東京電力の経営陣への質疑応答
- (5) 審議
第 1～11 号議案に関して株主の挙手による可否の審議

II：議案

今回あげられたのは 11 の議案（会社提案 1、株主提案 10）であった。

会社提案の議案は、東電側の取締役役員を選任するもの。

株主提案の議案は、原子力発電所の再稼働をしないこと、柏崎刈羽原子力発電所の廃止、福島第二原子力発電所の停止、原子力発電所にて収束作業に従事する作業員の労働環境、雇用条件の改善、再処理事業からの撤退などを求める議案などがあがった。最終審議にて採決がなされ会社提案の第 1 号案を除く全ての議案が反対多数による否決となった。

III：質疑応答

今総会にて、実際に質問・回答がなされた質疑応答より抜粋、記述。

- (1) Q: 柏崎刈羽原子力発電所の稼働に関して近隣住民の理解・承諾に対する企業努力が足りないのではないかと？
A: 東電はこれまでに、原発稼働に関して現地での公聴会の開催、また役員の現地支社への派遣を通して再開へ向けて努力をしている、また施設の地盤に関しても適切な検査のもと安全を期すべく努力をしている。
- (2) Q: 原発事故から一定の時間を経ても未だに土壌・海洋汚染が収束しないのは何故か？
A: 東電としては、事故による汚染に対して汚染水を封じ込めることを最重要課題として、これ以上、汚染水を増やさない努力を行ってきた。地下パイプラインの建設など地下水の汚染の防止にも努めている。

(3) Q: 東電はなぜ、これほど会社にとってイメージの面でも収支の面でもマイナスとなる原子力を推進し続けるのか？

A: 政府のエネルギー政策のもと、利用者に安定的かつ安価な電力の提供を原子力発電によって果たすため。

(4) Q: 東日本大震災以降、損なわれた企業のイメージ、社員のモチベーションの低下を以下にして回復に向けるのか？

A: 株主代表者による指摘はもっともであり、会社としても努力を怠らない。

(5) Q: 東日本大地震の際に福島第一原発にて所長にあり 2013 年に亡くなった吉田所長の事故後に作成された「吉田調書」を公に公開すべきでは？

A: 東電としても、事故後に故人に対するヒアリングは行ってきた、その結果をまとめられ他の作業員の証言との矛盾、食い違いを含め作成した報告書はすでに公開している。

また行政による故人への調査も成された事実も把握しているが、その内容については東電としては把握しておらず発言する立場にない。

IV：所感

今回、東京国際フォーラムにて行われた、東京電力による第 90 回株主総会に主席。

資料によると前回よりも規模の小さい会場で行われた今、総会においても、やはり出席者の一番の感心は原発をめぐる問題に集中していた。

質疑応答の中には先日、話題となった連載漫画の福島での描写を例に出し、放射能汚染と子供たちの健康被害の責任の取り方などを東電役員に厳しく問責する場面や、指定の時間を超えても質問をし続ける株主に対して、マイクを切るなどの措置がなされ、その後議長による退場が言い渡されるとその男性は床に転倒し一時、場が騒然となる場面もあった。

全体の印象としては、今後の電力の自由化に向けての取り組み、または企業としての生き残りをかけた企業改革、さらには自然エネルギー開発・推進など課題、議論が山積みの中、株主による個人的な見解に対する役員側の経営側としての意見が最後まで平行線をたどり、両者が歩み寄ることは無かったと思われた。巨大な経営規模を持つ企業と地域、及びに個人の対立構造がとても印象に残る株主総会でした。

以 上